World Natural Heritage Ogasawara Islands

世界自然遺産
小笠原諸島

母島

自然遺産ガイド

小笠原が世界自然遺産に登録された理由

小笠原では、海によって隔てられた小さな島において、独自の進化をとげた多くの固有の生きものや、それらが織りなす生態系を見ることができます。このことが高く評価され、平成23年６月に世界自然遺産に登録されました。

母島の特徴

母島は、小笠原諸島で父島に次ぐ大きさの面積（20.2 km²）を持つ島です。標高 400 m ほどの山では、雲や霧が多く、湿った気候になっています。

お問い合わせ

TOKYO METROPOLITAN GOVERNMENT 東京都
小笠原支庁土木課

〒100-2101 小笠原村父島字西町
TEL： 04998-2-2123
FAX： 04998-2-2302

平成24年３月
登録番号（23）10

制作・発行： 東京都小笠原支庁
写真提供： 苅部 治紀、千葉 聡
編集： （株）プレック研究所
絵＆デザイン： 羽馬有紗

母島の世界自然遺産としての価値

生態系： 生物進化の過程を示す見本

湿性高木林

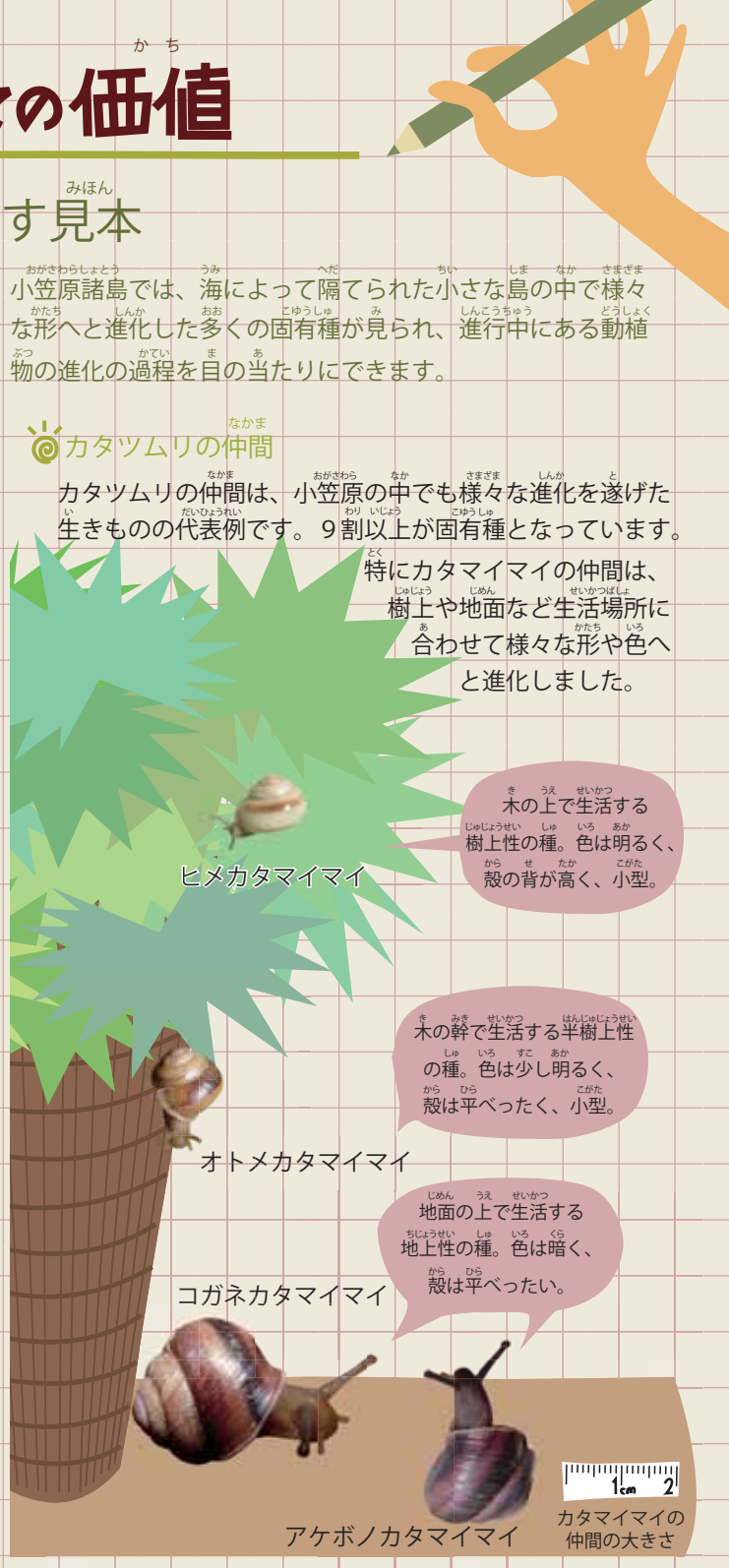
母島の石門などに分布する背の高い林です。母島は山が高いため、海から吹いてくる湿った風が山をかけのぼって雲をつくり、山頂付近を覆っています。雨や湿気を好む植物からなるこの林は、多くの固有の生きもののすみかになっています。

小笠原諸島では、海によって隔てられた小さな島の中で様々な形へと進化した多くの固有種が見られ、進行中にある動植物の進化の過程を目の当たりにできます。

カタツムリの仲間

カタツムリの仲間は、小笠原の中でも様々な進化を遂げた生きものの代表例です。９割以上が固有種となっています。

特にカタマイマイの仲間は、樹上や地面など生活場所に合わせて様々な形や色へと進化しました。



母島の生きものたち

小笠原諸島では、小さな島の中に多くの固有種が分布しています。母島は、オガサワラシジミやアカガシラカラスバトの重要な繁殖地です。

オガサワラシジミ
日本の中で最も絶滅の恐れが高いチョウ。かつて父島にも分布したが、現在は母島のみに生息。天然記念物。

アカガシラカラスバト
ハトの仲間で、頭が紫色がかった赤褐色をしている。母島は重要な繁殖地。天然記念物。

ハハジマメグロ
目の周りの黒い三角形の模様が特徴。母島とその属島（向島、妹島）にのみ分布。特別天然記念物。

ホシツルラン
母島のみに生育し、自生する野生株は数株のみ。

変化しつつある生態系

人が持ち込んだ動植物（外来種）の影響で小笠原本来の生態系が変化しつつあります。

外から人や生きものがやってくる前の、小笠原本来の生態系

外から人や生きものがやってきた後の、変化しつつある生態系

現在、小笠原では本来の生態系を取り戻すための様々なとりくみが行われています。

詳しくは裏面をご覧下さい

母島自然遺産マップ

遺産区域

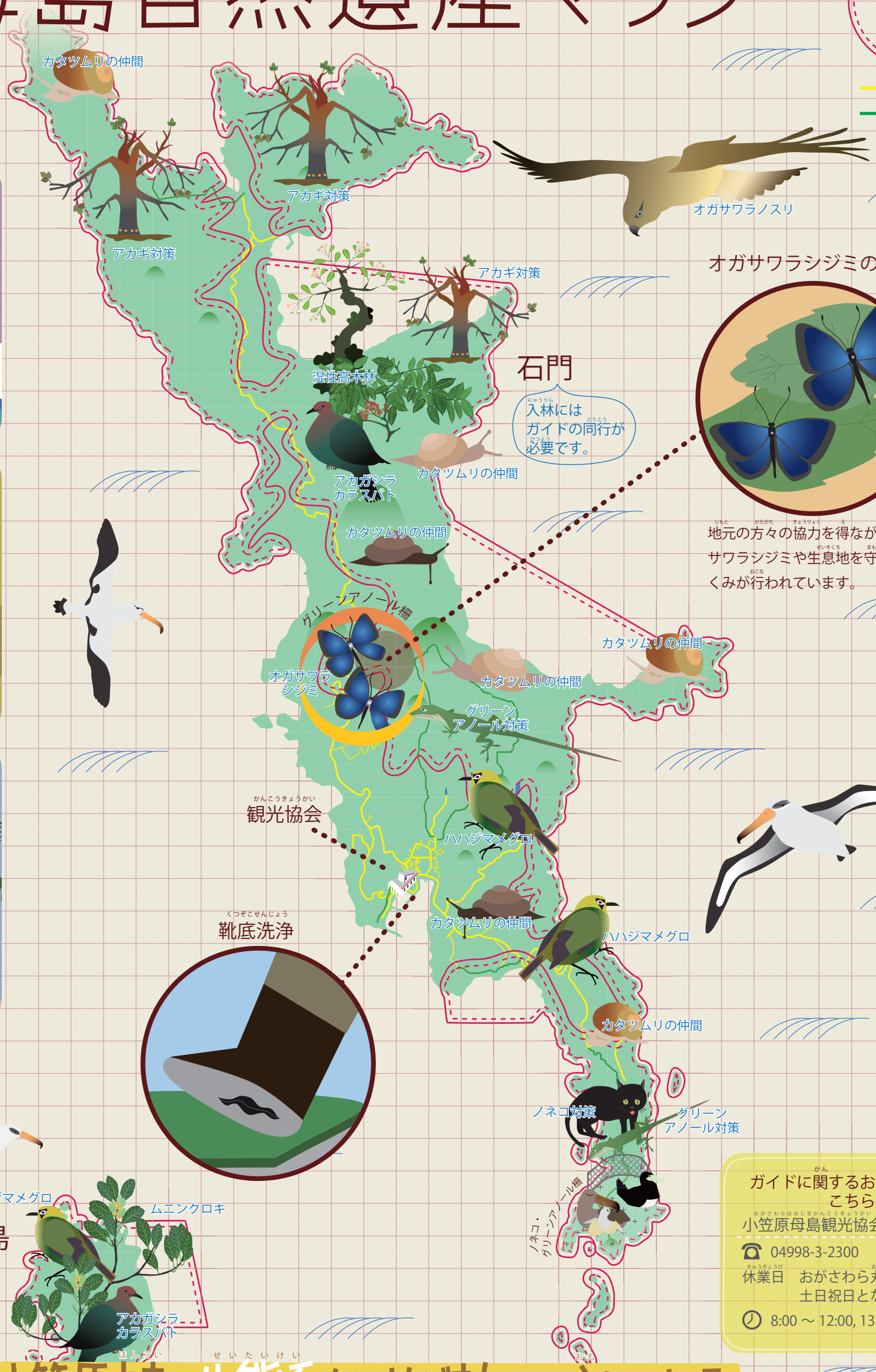
道路
歩道

小笠原の自然を守るための約束

外来種を侵入させないために

外来種を広げないために

固有種のすみかを守るために



ガイドに関するお問い合わせはこちらへ
小笠原母島観光協会
☎ 04998-3-2300
休業日　おがさわら丸出港翌日が土日祝日となった場合
8:00 ～ 12:00, 13:00 ～ 17:00

小笠原本来の生態系をとりもどすための主なとりくみ

アカギ

小笠原固有の林を急スピードで侵略するアカギの拡大を止め、本来の生態系を再生するために、薬剤などを用いたアカギの駆除を進めています。

グリーンアノール

グリーンアノールは人の住む父島・母島のみに生息します。母島では、希少な昆虫類を守るため、森の一部を柵で囲うなど、グリーンアノールの部分的な排除にとりくんでいます。

ニューギニアヤリガタリクウズムシ

カタツムリの仲間を食べるニューギニアヤリガタリクウズムシやその卵が、靴底にくっついて父島から母島に広がらないように、ははじま丸を下りるときに海水を含ませたマットを設置し、靴底を洗うよう呼びかけています。

ノネコ

母島では、野生化したネコ（ノネコ）が繁殖中の海鳥をおそうことがないよう、南崎の海鳥繁殖地を柵で囲っています。また、柵の周りを中心にカゴわなを使って排除しています。